

Musical
Awards
TOKYO

×

Musical
Next
Seeds

=

Musical
Critics(仮)

日本発の
新たなミュージカルを
未来に残せる
最高のミュージカルを

Musical Awards TOKYO 準備室

<https://musical-awards.tokyo>

1. メイン・コンセプト

Musical Awards TOKYOは「文化の裾野拡大」「新たな才能の発掘と育成」「多様性・共創」「社会的包摂」を柱とし、日本のミュージカル文化の持続的発展と国際的な発信を目指しています。

■文化環境の醸成と多様性の拡大

- ・ ミュージカルの「創る、観る、広める」を活性化し、企業や業界の垣根を越えた協働によって、日本の舞台芸術全体の土壌を豊かにします。
- ・ 既存の枠組みにとらわれず、グランドミュージカルや2.5次元ミュージカルなど多様なジャンルや人材の融合を目指し、観客層の拡大と新しい文化価値の創出に寄与します。

■次世代クリエイターの発掘と育成

- ・ 若手クリエイターの発掘・支援に注力し、将来の日本オリジナル作品の創出や、世界市場で活躍できる才能の発展を後押しします。
- ・ 最も若い次世代創作者となり得る学生向けの育成プログラムの構築に努めます。

■批評・評価文化の確立

- ・ 専門の批評メディア設立や、観客とライターによる選考体制を通じて、多様な視点からの評価やフィードバックを促進し、作品・業界の質向上と透明性を高めます。

■社会的包摂とウェルビーイング

- ・ 多様な背景を持ったクリエイターが脚光を浴び繋がることで社会的包摂の一助なりになると同時に、将来的に学校（学生）や地域コミュニティ、障害者など多様な人々が参加できるイベントの創出に努めます。

1-2. 2つのイベント

前段のメイン・コンセプトを実現するために、現在はミュージカルというジャンルに特化した下記の2つのイベントの開催を主軸に活動しています。

1 ミュージカルに関わる多様なセグメントの関係者を奨励し、観客とともに祝う場をすることで、ミュージカルに関わりたい人たちに分かりやすく目指すべき場所を提供する（Musical Awards Tokyo）。

2 既に上演された作品だけでなく、これから誕生する作品への興味喚起を促し、製作者と観客が協力して作品の成長と発信を行える場を提供する（Musical Next Seeds）。

これらを実現することによって、東京がミュージカルの新たな発信地となる未来を作ることに寄与することを目指します。

2. Musical Awards TOKYO：賞レースを超えたコミュニティ

【設立趣旨】

1. TOKYOを日本のミュージカル発信地の中核として周知していくために、アワードの名称を「Musical Awards TOKYO：ミュージカル・アワーズ東京」とする（以下、MAT）。
2. MATは、日本で上演されるミュージカル作品とそれにかかわる様々なセクションのクリエイター、俳優、スタッフの功績を奨励表彰し、日本国内のミュージカル発展に寄与する。
3. MATは、日本発のミュージカルが世界市場で長く活躍できるキッカケ作りに貢献するために、将来的には特に新進クリエイターの発掘とバックアップ環境の構築に努める。

■特徴：アワードの選考員を公募で選出。専門選考員と観客選考員の2つのカテゴリーにより賞の授与を検討。また既存に存在しないユニークな賞を臨機応変に設置していく（例：アンサンブル賞、音楽監督賞、翻訳賞、ミニシアター賞、注目の取組賞など）

■実施方法：前年12月から当年11月までに上演された作品の中から専門選考員によるノミネート作品を選定後、観客選考員を交えて受賞作を決定。観客賞のみ観客選考員単独でのノミネートと受賞作選考。

■スケジュール：2025年8月より各選考員を追加募集予定。12月にノミネート作品選考会議開催。
2026年1月にノミネーション発表。2月に授賞式開始。

2-1.2024プレシーズンの受賞結果

全18部門で9つの作品、12人の個人及びアンサンブルが受賞

【大賞】

ゴースト&レディ

【新人賞】

藤森蓮華

【編曲賞・音楽監督賞】

鎮守めぐみ

【観客賞】

カム フロム アウェイ

【作品賞（500席超）】

カム フロム アウェイ

【アンサンブル賞】

カム フロム アウェイ

【振付賞】

TETSUHARU

【審査員特別賞】

『ビリー・エリオット～リトル・ダンサー～』の子役たち

【作品賞（500席以下）】

SMOKE

【演出賞】

上田一豪

【舞台芸術賞】

池宮城直美

【ニシアター賞】ジル・ド・レ ～吾輩は娼館の蚤である～
相依為命～あいよっていのちをなす～
ソフトパワー**【主演俳優賞】**

井上芳雄、望海風斗

【脚本賞】

高橋知伽江

【翻訳賞】

高橋亜子

【助演俳優賞】

廣瀬友祐、豊原江理佳

【作曲賞】

富貴晴美

【リメイク賞】

当無し

Bye Bye My Last Cut

You Know Me ～あなたとの旅～

2-2.実際のイベントの様子@BASE Q



2-3.Musical Awards TOKYO 2024 プレシーズンの成果

開催日：2025年2月6日



授賞式
参加者数

112名



ライブ配信
視聴者数

9511名



インプレッション
広告費換算

約280万円

認証済みのフォロワー 

57 / 3.4K

インプレッション数

6.8M ↑3K%

エンゲージメント率

3.6% ↑16%

エンゲージメント

248.4K ↑4K%

プロフィールへのアクセ
ス数

75.6K ↑7K%

返信

62 ↑1K%

いいね

60.9K ↑22K%

リポスト

19.3K ↑12K%

ブックマーク

2.6K ↑5K%

Shares

882 ↑14K%

3. Musical Next Seeds : コンテストじゃない、ショウケース

【実施の目的】

1. 知ってもらふ

現状のスターシステムの中で、無名のクリエイターが作った作品を観に来てくださるお客さんは多くはありません。

そこで数曲をお披露目する形で、ショウケースとしての合同の新作発表の場を設けます。

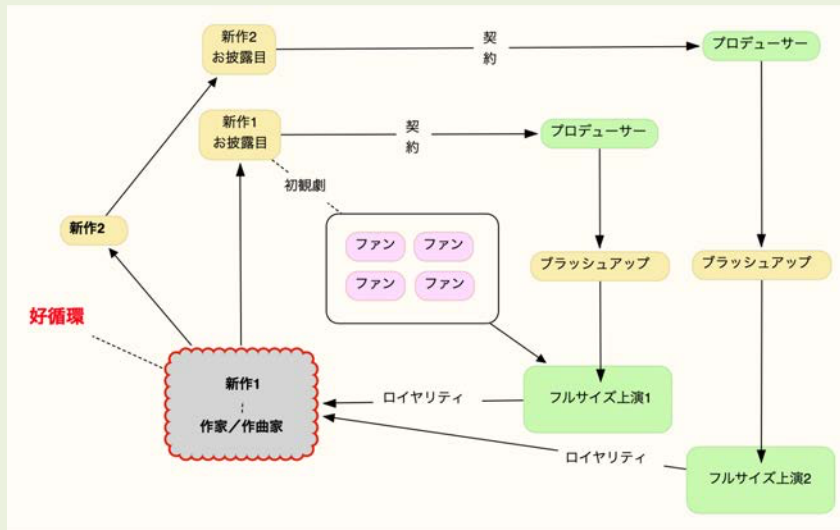
2. 買ってもらふ

このお披露目の場が、いわゆる展示会の役割を担います。気に入った作品があれば手を挙げた制作会社がクリエイターと契約することができます。これによって若手クリエイターにフルサイズで上演できるチャンスが生まれます。

3. 作品をファンと共に育てる

このショウケースには一般のミュージカルファンなら誰でもご覧いただけます。ファン側にも応援したい新作が生まれることで、フルサイズの上演可能性が高まり、制作会社にとっても将来のファンを確保できる機会になり得ます。

将来的にファンも投資に参加できる仕組みに繋がります。



【実施の流れ】

公募→ お披露目できるレベルの作品をpick up

→ 日比谷でお披露目（選抜外作品もフリンジ的に演奏可）

→ 契約成立までアフターフォロー

3-1. Musical Next Seeds : 選考から開催までの流れ

【開催までの流れ】

- ・ 25年2月公募開始：企画意図、プロット、最低2-3曲のボーカル付き楽曲提出
- ・ 25年2月末締切：18作品が応募（最年少は12歳）
- ・ 25年3月選考：MATの専門選考員と準備室メンバーで投票実施
 - ↳ 生で見てみたい作品のtop3を記載し、勝ち抜き形式で決定
- ・ 25年4月上旬参加者発表：8作品が決定
- ・ 25年5月10日～11日開催：4作品ずつに分かれて開催
 - ↳ 1作品12分まで、発表形式は自由

【ピッチ参加作品】

- | | |
|-----------------------------|---|
| (1) インスタント・ラブヌードル | (5) 心から |
| (2) ロミオ アンド ジュリエット アット ドーン！ | (6) Aile (エイル) |
| (3) イズ・エヴリシング・オウライ？ | (7) ジル・ド・レ～吾輩は娼館の蚤である～ |
| (4) 東京物語 一僕らを探しにー | (8) The Curious Case of Benjamin Button |

3-2.実際のイベントの様子@東京ミッドタウン日比谷



3-3.各所の反応

1.期待作品への事前投票：1172人が投票に参加

2.制作会社：10数社の制作会社の方々が参観。
現地で名刺交換などもあった。

3.日比谷フェスとの連携：初回の現地の熱気などの
反響から今後も引き続き共催していきたい。

4.応募者：

- ・興味を持つ制作会社が現れるかという懸念
- ・知ってもらふ機会となったのはプラス
- ・ピッチの習慣をつける意味付けができた
- ・コミュニティと交流の場としても必要と感じた

最も楽しみな作品に投票！

ジル・ド・レ～吾輩は娼館の蚤である～ (35%, 472 票)

Aile (エイル) (18%, 236 票)

心から (12%, 162 票)

ロミオ アンド ジュリエット アット ドーン！ (9%, 123 票)

インスタント・ラブヌードル (9%, 117 票)

The Curious Case of Benjamin Button (7%, 88 票)

イズ・エヴリシング・オウライ？ (6%, 85 票)

東京物語—僕らを探しに— (4%, 53 票)

回答者数:1,172

4. ミュージカル専門批評サイト：Musical Critics（仮）の創設

ミュージカルに対する専門的な批評・レビュー文化が現在の日本には存在しません。一般ファンのSNS投稿や感想は存在しますが、専門的視点で「どの作品の何が優れているか」「どのタイプの観客に向いているか」を体系的に論評・アーカイブする媒体があることで、作品の客観的評価や再演時の訴求材料が増え、制作者・観客双方にとってマッチング（評価フィードバックと新規観客獲得）の機会の獲得に繋がると考えています。主なメリットは以下の通りです。

1. 批評プラットフォーム

作品情報が断片的に散在し、蓄積・検索が不可能な状態を解消。

2. 評価基準の明瞭化

日常的な批評文化を定着させることで、俳優ファン等の視点による個人的な“感想”と区別された専門的評価を提示。

3. 情報発信のインフラの役割

制作者が作品の魅力を客観的に伝える第三者の声（批評家）として活用できるようにすることで、新規観客へのリーチに役立てる。

4. 業界内ステークホルダーの高い障壁

批評サイトの立ち上げ・運営には専門家選定や運営コストがかかるため、単発のメディア掲載では持続的なフィードバック基盤を構築しにくい。当サイトを通して持続的なフィードバックのアーカイブを構築する。

4-1. Musical Critics（仮）の具体的なイメージ

【流れと体制】

- 批評サイトの場所：Musical Awards TOKYO内
- 批評家の人数：12人
- 批評家の選定：公募及びオファー
※MATの審査員は希望によりご参加
- 批評のサイクル：月6本（6人）の更新を隔月に
※批評がない月はレコメンドを3本程度
※1年間運用した結果で本数増などを検討
- 1本当たりの批評の長さ：3000字～4000字
- 若手育成プログラム：公募から若手を中心に批評専門家による「劇評講座」を開設（一般の方の講座参加による費用捻出も検討）

【スケジュール（想定）】

- 2026年1月～2月 批評用の公式サイト構築
- 2026年3月～4月 公式サイトをトリガーにして批評家の公募及び呼びかけ
- 2026年5月 掲載批評家確定
- 2026年6月 若手向けの講座実施
- 2026年7月 サイトプレオープン
- 2026年8月 改修を経て公式オープン

※サイト構築及び執筆原稿料はスタート時点では助成金や協賛金を念頭に立ち上げる。

5.未来像：エコシステムの構築

育成と批評の総合祭
(Musical Awards TOKYO)

奨励



新進クリエイター向け
(Musical Next Seeds)

育成

既存作品と観客向け
(Musica Critics 準備中)



批評



5-1.未来像：成長イメージ

フェーズ	主な取り組み内容
初期（現状～2年）	若手クリエイター・参加者の発掘、観客参加型評価の強化、ネットワーク拡大
中期（3～5年）	海外を含む東京以外の地域との連携、地域文化題材の作品創作、企業・団体との共創深化
長期（6年以降）	国際展開、持続可能な運営体制確立、社会的包摂・多様性の推進

5-2.未来像：短期～中期における詳細なバージョンアップのイメージ

1. イベント規模とコンテンツの拡張

＜規模拡大＞

- ・参加作品数：10～20作品
- ・配信視聴者数：9,500人→20,000人
- ・開催日数：2日間→3日間（本番＋アフターイベント）

＜コンテンツ多様化＞

- ・業界別セッション：脚本・作詞・作曲別の専門分科会
- ・オンライン参加枠：地方クリエイターのリモート参加システム
- ・学生部門：高校生・大学生向けの特別カテゴリー新設

2. 批評プラットフォームの本格運用

- ・月間レビュー数：6本→12本
- ・観客参加型レビュー機能の実装
- ・専門家評価に観客評価を加えて作品の特性を可視化
- ・AIを活用して批評等から似た系統の作品をカテゴライズ化
- ・レビューアーのフォロー／評価機能の強化

3. パートナーシップの戦略的拡大

- ・企業版ふるさと納税制度の活用
- ・地域文化資源との連携企画
- ・協賛企業10社体制
- ・業界外企業（IT・金融・メディア）との戦略的提携
- ・協賛メニューの多様化（資金・物品・サービス・人材派遣）

4. 教育機関連携

- ・音楽大学・演劇系大学との連携
- ・学生向け特別プログラムの開発
- ・批評人材育成プログラムの拡充

5. 収益モデルの複合化

- ・有料観客の動員
- ・有料オンライン配信チケット販売
- ・批評サイトの有料会員制度
- ・クリエイター向けコンサルティング事業

6. 国際展開の本格化

- ・韓国・台湾・上海との三角連携プログラム（相互作品派遣）
- ・アジア圏ミュージカル批評家ネットワーク構築
- ・多言語対応の批評サイト構築

7. ファン投資プラットフォームの導入

- ・ファンが作品制作に直接投資できるシステム
- ・投資収益の一部をファンに還元する仕組み
- ・成功作品の利益シェアによる持続的収益モデル

8. クリエイター支援ファンド

- ・優秀作品への制作資金提供
- ・海外展開資金の支援
- ・長期的なクリエイター育成投資

6-1. プロジェクトへの参加をご検討の皆様へ

Musical Awards TOKYOに参加されることで、具体的には下記のようなメリットがあると考えています。

1. ネットワーク拡大と新規プロジェクト創出

- 他の制作会社や事務所、業界関係者との交流を通じて、新たな共同制作やビジネスチャンスが生まれます。
- イベントを通じてスポンサー企業やメディア関係者とつながり、今後の企画やプロモーションの幅が広がります。

2. 文化的ブランド価値の向上

- 文化支援や社会的貢献への積極的な姿勢は、企業・事務所のブランドイメージや社会的評価を高めます。
- 多様性や包摂性を重視するプロジェクトへの参加は、現代的な価値観に合致した企業姿勢としてアピールできます。

3. 地域・国際展開への足掛かり

- 海外の団体や劇場との連携、また将来的に地域文化を題材にした作品の上演などを通じて新たな市場開拓の可能性があります。
- 国際共同制作や海外フェスティバル参加など、グローバルな展開のきっかけにもなります。

6-2. スポンサーをご検討いただきたい皆様

Musical Awards TOKYOに下記の形のいずれかでご協力いただけないかご検討ください。

1.資金・物資提供：協賛金、機材・会場提供、広報協力など

イベントの開催地、イベントで使用する機材、授賞式用のトロフィー製作、批評のギャランティ、アワーズ司会者のギャランティ、公式サイト運用等で、500万円程度の予算を確保したい状況です。

2.人的支援：講師・メンター派遣、ボランティア参加

ビジネスシーンなどで必要となるプレゼンや資金調達の手法などに関するセミナーをクリエイター向けに実施していただいたり、Musical Awards TOKYOやMusical Next Seedsなどのイベントにボランティアを派遣していただくなどです。

3.知的協力：プログラム開発、評価・フィードバック提供

実際にイベントやプログラムに参加されて改善点の提示や新たなネットワーキングにご協力いただくイメージです。

4.共創活動：共同企画、共催イベント、コラボレーション作品制作

Musical Next Seeds参加者の作品完成支援、ショウケース支援、上演補助のような一次的なインキュベーション共創プログラムの他に、発掘されたクリエイターへ音楽や脚本、演出等にまつわる新たなオファーのご検討も可能と思います。

例) CM曲やカンパニーソングの作曲、地域伝統や社史の戯曲化、イベントの演出など